

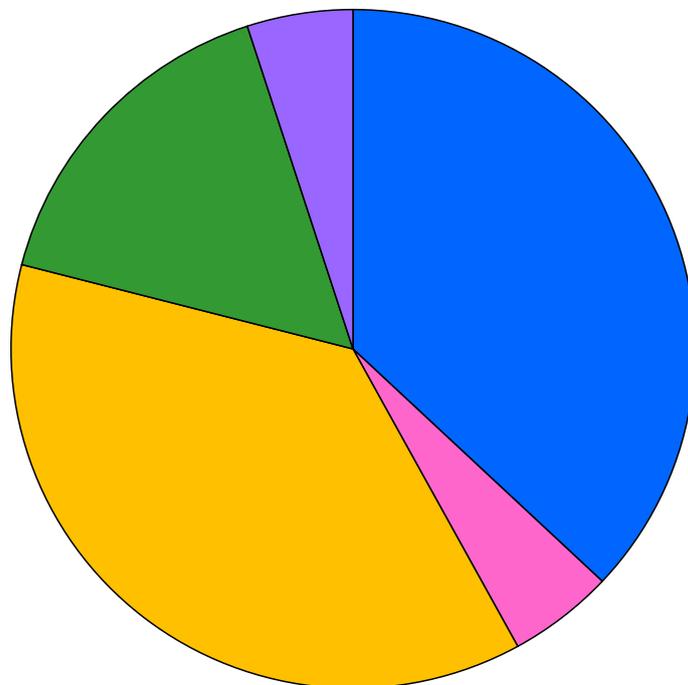
プログラム名 障がい者「が」働く、障がい者「と」働く～第6回
デジタルTERA小屋 俣野公利さん～

単元名 RA

アンケートタイトル 障がい者「が」働く、障がい者「と」働く～第6回
デジタルTERA小屋 俣野公利さん～

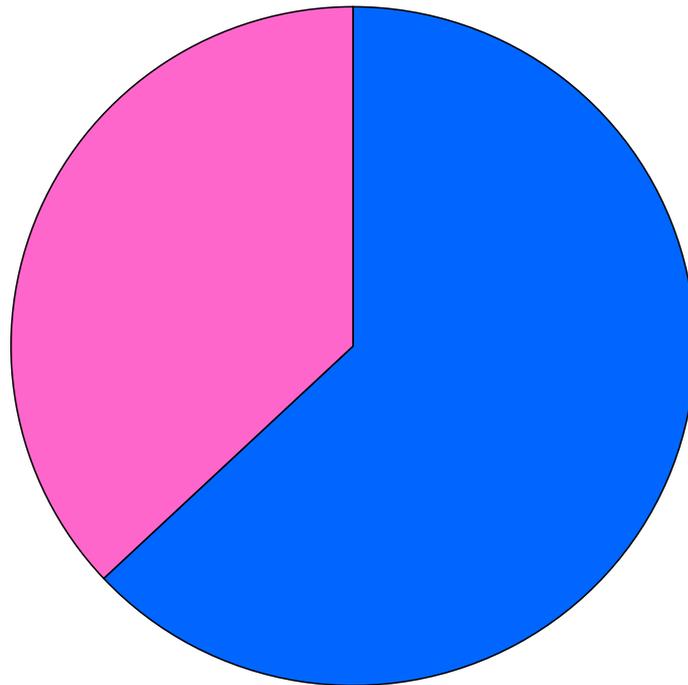
質問1 本プログラムを同僚や友人など身近な人におすすめしたいと思いますか。1
1段階でお答えください（10＝必ず勧める ～ 0＝勧めない）（択一式）

No	解答	人数	%
1	10＝必ず勧める	14	37%
2	9	2	5%
3	8	14	37%
4	7	6	16%
5	6	2	5%
6	5＝どちらでもない	0	0%
7	4	0	0%
8	3	0	0%
9	2	0	0%
10	1	0	0%
11	0＝勧めない	0	0%
合計		38	



質問2 「障がい者が働く、障がい者と働く」にご参加いただき、皆さまの生き方や働き方の参考になりましたか。（択一式）

No	解答	人数	%
1	大変参考になった	24	63%
2	参考になった	14	37%
3	どちらでもない	0	0%
4	あまり参考にならなかった	0	0%
5	参考にならなかった	0	0%
合計		38	



質問3 本プログラムを通して、気付いたこと、これからご自身で実践したいと思ったことはありますか。
小さなことでも構いませんので、ぜひお聞かせください。（自由記述）

【自由記述】

・チラシの机の上への配布について あらかじめ、本日のプログラムでDPPを利用する旨と、そのQRコードを一番上に見えるように置いておくべきだと思いますが いきなりDPPみんな使えるよね、の体でプログラムが始まったので、会場内が全員ついてこれたのか疑問 会場スクリーン表示のQRはアンケートだった

・配慮しているつもりでも、こちらの思い込みであることも認識しなければと思いました。

以前聞いた話で、銭湯で、片腕がない方がいて、背中などを洗ってあげようと思い、「どこか洗ってほしいところ・・・」を訪ねたところ、「右手です」と言われ、ハッと気づいたことを思い出しました。

・あくまでも見るべき、考えるべきは「人」。障がいは個性・特性であるし、広い意味でDEIをナチュラルに実践して行きたいと改めて感じた。

・息子の施設に紹介します

・職場の同僚との接し方の参考になりました

・コミュニケーションはうるさいくらいに進めるように行動してゆきたいと思います。

・障害を受容するということが以下に難しいか

またその間のこころの葛藤など参考になった また、多様なことをそのまま受け入れることも大切で、それが、社会でよりよく生きていくということにつながる

・まず大切なのは本人がどうしたいのか話を聞くことだと感じました。その上で何ができて、何ができないのかを一緒に考えていくことだと思いました。

・「思い込み」はよくないことだと痛感しました。また、これは、障がい者でも健常者でも同じですが、コミュニケーションをうまくとっていくことが非常に重要だと改めて思いました。

・障がいへの理解の大切さがよくわかりました

・障害のある方への支援職をしています。透析が必要となった俣野さんに対し、差別的取り扱いもせず、合理的配慮などもしてくれたが、ご本人は自己肯定感や自己効力感がなく、疎外感を感じていた、というところに、自分たちもそのようなことをしていないか、とハッとしました。いつも、負担をなくそう、失敗をさせないようにしようということばかり考えてしまいがちですが、ご本人が何をしたい、したくないかをしっかり把握し、やりとりをすることが大事だなと気づきました。

・アンコンシャス・バイアスについて、自分自身にもあるかと思いますので、今まで以上に気をつけていこうと思います。

・よかれと思った一方通行の思いやりではなく、コミュニケーションからのすり合わせ

の重要性に気づきがありました。とはいえ無発語者の親族としては、コミュニケーション方法の模索から始めないといけないので、更なるハードルを感じました。

・特例子会社で指導員としてはたらいっています。受容することが一番大切なように感じています。中途障害ですと、そこがとても難しいことかと、そしてそこを丁寧にお話くださり、大変参考になりました。今は様々な働き方があり、透析をしながら勤務も可能になったとのこと。これからはITの力で困難な事等のサポート面をクリアし、多くの障がい者がやりがいを持って働ける世になることを願います。

・障害のある方に配慮して良かれと思ってやったとして、そして、その方が良い反応をされたとしても、本当の気持ちはわからないと、言うことを、今日のお話を聞いて、改めて思いました。人の気持ちに寄り添うというのは難しいことです。

・中途障がい者の受容プロセス、淡々とお話をされましたが、非常に重たい受容という言葉、噛み締めております。心に響きました。ありがとうございました。自分も若い時に病を得て、キャリアが変わりましたが、俣野さんの様に客観的振り返ることができていません。

・障害者に対する勝手な先入観を持たず、コミュニケーションをとることが大切だと再確認しました。

・障がいは、一人ひとり内容が違いますし、感情（気持ち）は、同じ人でも一定しておらず揺れ動いているのだと改めて思いました。

常にコミュニケーションを取ることが大切だと感じました。

障がいがある本人の自律、その後に合理的配慮がある、そこを意識したいと思います。

・特に心に残ったのは、周りの勝手な思い込み、アンコンシャスバイアスにより、ご本人が希望しない配慮をすることは、ご本人にとって、疎外感、あきらめ等に繋がるということでした。弊社では、所属内でのご本人とのキャリア面談のみではなく、年に1度、ご本人と人事とで面談を行い、会社の取組みの最新情報をお話ししたり、ご本人がご困りになっている点やご希望等を伺っています。これらの取組みを、”取組み”ではなく、日常のコミュニケーションを増やして、自然に分かり合えるような職場にしていきたいと思いました。 ※早速、昨晚、今朝から開始しています。

・中途障がいで ショック→否認→混乱→努力→適応→受容

までの過程が決して単純でなく、進んでは戻り、を繰り返しながら進んでいくという話がよく分かった。また、事態の「容認」は出来ても「納得」するまでにもかなりの時間も必要なのかと思った。 今日の話、身体的健康・精神的健康・社会的役割（やりがい）が必要なのは健常者・障がい者関係ない話だと感じた。 人間弱いもので、何か物事がうまくいかないと、●●のせい、●●がなければ、と人のせいや「たら、れば」の話をしてしまう。障がい者の方なら、「障害にならなければ・・・」健常者なら「あと●日あれば・・・」とか。 難しいことですが、その現状を認め、受け入れる。弱い自分を認めることが第一歩なのかと思う。 健常者と障がい者 この分け方にも無理があるが、障がい者の中にも実に様々な症状の方がいるので「障がい者」ひとくくりにするのもものすごい違和感がある。 障がい者の方と接するときはどうしても「気の毒」という先入観を持って接してしまうのがまずダメで、障がいをもってる方がいて普通。それを認めて、協力し合いながら物事進められればいいですね。一方的に「与える」「してもらおう」という状態からの脱却ですかね。お互いWinWin!! いわゆる障がい者と区分されてしまう方の中にも「健常者」より優秀な方もたくさんおられるという現実もありますし。

政府が定めた障がい者雇用率2.3%は現実的に大企業でないと難しいことも多い。 社内

施設のバリアフリー化にかかるコストや様々な障害を理解し、コーディネートできる人ってそうそういない。自分にできることは何かと考えると、まずは「相手の立場に立って考えてみる」ということではないか。今日のMさんのように障がい者になったら営業部から違う部に転籍、勤務地も大阪へ戻すなど会社としても考えていろいろやったのだから、そこまでできる会社は素晴らしいと思うと同時に、当事者の話を聞く、当事者の立場になって考えてみる。といった寄り添う姿勢があればもっとよかったのだろう。

・見た目では分からない障がい者の方はたくさんいらっしゃるのだろうなと改めて思いました。実は障がい者だった、自分には障がいがあると打ち明けてくださった際には、アンコンシャスバイアスを頭の片隅に、いつもと変わらないコミュニケーションを図りたいと思います。

・病院での5時間の人工透析中は
じっとしているだけで何もできないとっていましたので
業務ができているというのは まさにアンコンシャスバイアス

・周りの勝手な思い込み、アンコンシャスバイアスなどで、良かれと思った配慮でも、ご本人にとっては、疎外感、あきらめに繋がることもあり、ご本人とコミュニケーションを取り、対応を進めていく必要があることを改めて感じさせられました。また、透析をしながらテレワークができる施設があることを知り、障がいのある方や患者の方々のQOLを上げる取り組みがされていることに興味を持ちました。

・デリケートではあるが、ホンネのコミュニケーションが必要

・身内に障がい者がいます。足が不自由なので、気を使って手助けすることもあるのですが、手伝うほうは良かれと思ってやっても、手伝われるほうもそう思っているとは限らない、と気づきました。お話に合った通り、コミュニケーションは大切ですね。ご自身の心の中をお話ししていただくのは、かなり勇気がいることだと思いますが、とてもためになるお話でした。

・健康で働き盛り時に突然の病により通常勤務が難しくなることは想像しがたいものがありますが 講演の中でM氏の変化（自己分析）が語られ非常に感銘を受け勉強になりました。・障害者雇用**法により一定程度（3%？）の障害者雇用が義務化されているが、全企業、全行政機関が 更に努力し達成されるべきであると考えます。

・もし私も同じ境遇になったら、Mさんのように行動できるのだろうか、大変考えさせられる内容でした。ありがとうございました。

・障がいが大きくても小さくても外観的にあってもなくても自分なりの受容プロセスを踏んでいる。障がいでもなくても家族や周りの人がその人のことで受容プロセスを踏んでいる。障がいもなくみんな何かしらの受容プロセスをふんでいるのではないかなんな気がする。生きるって大変だなと改めて感じた。

・私も後天的障害者ですが、
障害受容までの段階は、突然障害者になってしまった自分の心境の変化と同じです。昔を思い出しました。「失ったものを数えるな 残されたものを最大限生かせ」この言葉が心に刺さりました。

・本プログラムは、自分がメンタルをやられたことのことを思い出しました。

どうすればよかったのか、考えました。

・支援者として、基本的な知識を持った上で、一人一人に「あなたはどうか?」「何に困っているのか?」を聞き、どうしたらうまくいくか、お互いのできることは何か、を考えていけるようになりたいと思った。

質問4 全体を通してのご感想やご意見、今後の開催に向けてのご要望等ございましたら、ぜひお聞かせください。（自由記述）

【自由記述】

- ・ 俣野様が人口透析をお受けになる事になった結果、具体的にどのようなハンデを追われたのか、スタートがよくわからなかった。
週3透析が例えば19—23時に行えるのか、など、時間的な情報がなく。
無知なだけかもしれませんが。
- ・ 「障害」ということだけでなく、それぞれが持つ「特徴」というか、「個性」も同じように気配りが必要かなと考えました。一つの事に、さまざまな考え方、受け取り方があり、考えなければならないことを日々言い聞かせてはいますが、あらためて思う次第です。
- ・ 働き方と言うより、生き方や考え方を学ぶことができた。
- ・ 会場で参加してよかった。ありがとうございました。
- ・ また参加します
- ・ 先天性障害を持った姪に仕事がなく、なにかをしてあげないといけないと思っていましたが、まずは本人がどうしたいと考えているのかを知ることから始めないといけないと気付かされました。ありがとうございました。
- ・ 前回の俣野さんのエキスパートスタジオを見ていないので、ぜひこれから見たいと思います。
- ・ コンパクトにわかりやすくまとまった番組でとてもよかったです
- ・ 自身の障害受容に対して分かりやすく説明できる方にあまりお会いしたことがなく、とても実感を持って理解ができました。その他とても興味深いお話でした。ありがとうございました。
- ・ 障害のある方の親御さん、支援者の方々とお会いする機会があり、大変参考になりました。
- ・ 障がい者への社会福祉等、調べない限り誰も教えてくれないものが多いです。そういった面を役所の担当者から教えてもらえる研修を開催してもらえませんか？
- ・ 経験にもとづく貴重なお話し、ありがとうございました。シーン毎の心を知る事ができたと思います。今も受容しきれないという言葉が印象に残ります。ありがとうございました。
- ・ 上に記載してしまいました… アンコンシャスバイアスについてお話がありました。とても気をつけています。得意なこと、苦手なことはそれぞれありますが、可能性は潰さずに寄り添うことを心がけています。当事者の方からのお話を、理路整然とした内容でうかがう機会があまりないので、また違った側面からのお話も聞いてみたいです。本日はありがとうございました。

・障害の理解のためのシリーズを視聴したいと思いました。
今日はありがとうございました。

・野田さん、石井さん、山本さん、俣野さん、毎回すごく良かったです。自分の無知浅はかさなど、思い知りました。毎回ありがとうございます。設楽さんも楽しみです。

・参加させていただいき誠にありがとうございました。
講師の率直なお話に、感銘を受けました。

・会場で話を聴く方がオンラインよりも心に響くと感じました。

・今後もぜひ寺子屋に参加させていただこうと思います。

・設楽さん 参加してみたいと思いました

・Mさんが当時の感じていたこと、思っていたこと、そして現在の思いを赤裸々に話して下さり、ほんの僅かかと思いますが、障がい者の気持ちに近付けた気がしました。日本がもっと、多様性が当たり前の国になると良いですし、そうしていきたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。

・精神障がい者・発達障害者との付き合い方について、学べる機会があれば参加したいと思います。

・16本シリーズで障がい者との接し方を学ぶ無料のプログラムもいいが
上記シリーズを何本かまとめるなりして 値段はある程度高くてもいいので
会場にて有料参加で行うプログラムもあったらいいのでは

・御社の集客力の凄さをあらためて認識しました。
ご参考ですが、弊社でPeatixで隔週ペースに開催のオンライン無料セミナーは、
毎回1名いるかどうかです。
今後も、これら事務局視点でも、色々と勉強させて頂ければと思います。

・今後しっかり考えたい

・前回は記載しましたが、開始が18時というのは、少し早いと思います。次回は、農業家の方が登壇されるとのこと。せっかく霞が関で開催するので、農水省にもアピールしてみるのはいかがでしょうか。

・全体構成およびライブの進行ともに大変良かった様に思います。大変お疲れ様でした。
・俣野様が4年前？に講演された映像を視聴したいと思っています。

・和やかな雰囲気で行進しておりとてもよかった。

・ANAウイングフェローズ・ヴィ王子様は企業規模が大きいのですが、規模の小さい企業での障害者雇用は難しいと感じました。

・今後、自分と共感できるようなセミナーを期待します。

・内部障害も、困り感が周囲に理解されにくい障害だと思う。関係者だけではない人たちに伝えていくために、さまざまな媒体からの発信が大事だと思う。